

過疎地域持続的発展計画 パブリックコメント実施中です

1月21日から2月13日(必着)の期間、「飯館村過疎地域持続的発展計画」(案)のパブリックコメントを受け付けています。

この計画は法律に基づき、人口減少などが課題となっている過疎地域の自治体が策定するもので、持続的な発展のために必要な施策を、さまざまな分野で計画して実行します。

計画(案)は期間内、村役場・いちばん館・交流センター「ふれ愛館」で閲覧ができる他、村のホームページでも公表しています。



役場は住民課窓口にて閲覧資料があります。

ホームページの閲覧ページは左のQRコードから。ご意見は書面の提出・郵便・電子メール・ホームページの問い合わせフォームにてお願いします。2月13日必着です。



絵本を通して大人も子どもも一緒に楽しい時間を過ごしました。



物語の世界が広がる 『絵本ライブ』を開催しました

1月25日、交流センター「ふれ愛館」で、『絵本ライブ』を開催しました。出演は、絵本ライブユニット「にじのかた」で、4年連続の開催です。

大型絵本の読み聞かせや、歌に合わせたパネルシアターにぐっと引き込まれたり、かけ声やダンスで参加したり、さまざまなアプローチで物語の世界を味わいました。毎年参加している子ども達が覚えた歌をどんどん口ずさむなど、ライブならではのコミュニケーションが和やかに広がりました。

クリスマス・コンサート 多数の来場者がJAZZを堪能

昨年末の12月20日、自主文化事業「クリスマス・コンサート」を、交流センター「ふれ愛館」で開催しました。出演は、ギタリストの浅利史花さん、ピアニストの石田衛さん、ヴォーカリストの近藤淳さんと県立福島高校ジャズ研究部。浅利さんは同研究部の出身者でもあります。また、来場者は100人を超えました。スタンダード曲を中心に、クリスマスを彩るジャズ・ナンバーが演奏され、会場を魅了。出演者全員によるアンコール演奏では、客席の皆さんも体でリズムを取りながら手拍子を打ち、会場が一体となっていました。



一流の演奏者による贅沢なステージ。村外からも多くの人が訪れ、ホールは満員に。

令和8年飯館村消防出初式 冬の青空の下約100人が参加

1月4日、交流センター「ふれ愛館」のホールで、『令和8年飯館村消防出初式』が行われました。

式には、飯館村消防団78人、役場消防隊10人、女性消防隊7人の計95人が参加しました。杉岡村長は式のあいさつで、多岐にわたり複合的な災害が多発している現状に触れ、迅速かつ適切に対応できるよう、危機管理体制を常に見直し、強化することの大切さについて語り、「その先頭に立つ存在として改めて気を引き締め、備えることを念頭に置いていただきたい」と団員を激励しました。



式に続き、交流センターの駐車場にて、杉岡村長、川村仁団長(関根・松塚)らによる観閲も行われました。

明治大学本所ゼミが 令和7年度の取り組みを報告

1月26日、交流センター「ふれ愛館」で、明治大学農学部の本所ゼミが、令和7年度「人・農・食・いいたて」未来へつなぐ事業の報告会を行いました。「つくる人(生産者)と食べる人をどうつなぐか」をテーマに実践的な活動を行う同ゼミは、村の生産者と深くつながり、飲食店や企業とも連携して、商品開発、農産品・商品の販売、PR活動などを行っています。3人の学生と本所靖博先生が、各プロジェクトの内容とそこで得た手応えを報告。生産者と共に、杉岡村長や村職員らが、心のこもった連携と実践に感謝を伝えました。



報告会の様子。左のポスターは、村の食材を使用したメニューを川崎市内の商業施設のレストランで販売した昨秋のもの。活動内容は多彩です。



飯館村食を考える会が 『豆腐づくり教室』を開きました

1月14日、いちばん館の調理実習室で、飯館村食を考える会主催の『豆腐づくり教室』が開催され、14人が参加しました。同会は震災前にもこの教室を開催していましたが、震災後は今回が初めての開催です。

教室では初めに、「バランス食について」「大豆からできるもの」をテーマに“ミニ講話”が行われ、続いていよいよ豆腐づくりの実習です。参加者は、作業のポイントを詳しく教わりながら、豆腐づくりを楽しんでいました。大豆からつくることで、豆の味が濃い豆乳やおから、豆腐が完成しました。



写真は型に布を敷き、豆腐を固める工程。教室は継続開催の予定です。ぜひ皆さんもご参加ください。